

# 地方分権改革の旗手会議（令和3年度第二回）の概要

【日時】令和4年2月17日（木）13:30～15:40  
【開催方法】オンライン開催（Webex（内閣府ホスト））  
【参加者】全体会：48名  
旗手交流会：32名

会議は、全体会（内閣府の説明や、自治体の事例紹介を実施）と、旗手交流会の2部構成。  
全体会では、長野県、砥部町より地方分権改革の取組の事例紹介を実施いただきました。

## ○提案の集め方等について

令和4年提案募集に向けて、**地方支援班より以下を説明。**

- ①提案（のタネ）を集める各手法（庁内外での取組や、研修の実施等）
- ②分権担当課からみた提案の集め方のスキーム図を用いた各課題の説明。
- ③旗手から提供いただいた庁内周知の独自の工夫について紹介。



【分権室の説明】



【説明中の映像】

## ○参加者の声

- 内閣府地方分権改革推進室の方からの説明と、実際の自治体の旗手の方の説明という2側面でのアプローチは非常に良いと思います。
- 長野県の事例紹介における「職員のワークライフバランスが向上（早く帰れる）」という考え方は、地方分権を「自分ごと」として捉えるきっかけになると感じた。
- 通常の対面研修はもちろん、オンライン研修に関する周知も行っていただけると、より制度の周知に繋がっていくものと感じました。
- 交流会では、分権室の方が上手に参加者へ話題をふっていたので、沈黙等がなく、有意義な交流会になったと思います。

## ○各団体の取組事例紹介

令和2年度地方分権改革推進アワードを受賞された長野県、砥部町（愛媛県）の旗手のお二人に取組事例を紹介いただきました。

### 長野県

長野県からは、地方分権に対する庁内の率直な反応と、**担当者が提案しやすい環境整備に取り組んでいること。**【事例紹介の画面（長野県）】

「地方分権改革を進めませんか」ではなく、「**分権改革により業務の見直しを行い、住民サービスやワークライフバランスの向上を図りませんか？**」と伝え、**自分ごととして考えてもらうように努めていること**などを、自治体目線でご紹介いただきました。

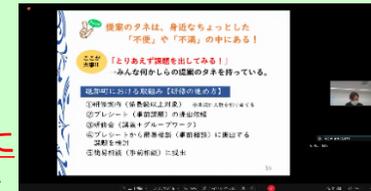


### 砥部町（愛媛県）

砥部町からは、平成30年2月の**県主催研修会に参加したことが提案募集活用のきっかけ**となったこと。

提案のタネは、身近な業務での「不便」や把握した「不満」の中にあり、砥部町では、**気軽に職員が集まって、「不便」や「不満」が提案募集方式で解決できないかと議論されていること。**

事前相談における支障事例や論点整理について、内閣府の調査員がフォローしてくれることなどを、自治体目線でご紹介いただきました。



【事例紹介の画面（砥部町）】